

2026年6～8月 夏の相談サポート現場レポート

夏休みになると、 支えも途切れる。

相談・サポートの記録から見たもの

ごはん、居場所、相談。

夏の暮らしから見えてきたこと。

休みになっても、
子どもの困りごとは休みません。

給食がなくなり、学校との接点が弱まる夏。 子どもの暮らしは止まりません。

給食や学校との接点が弱まり、暑さと食費・電気代の負担、
家庭で過ごす時間の長さが、子どもと親のしんどさを重くしました。

この夏に見えたこと

食料不足、希死念慮や自傷、家庭内の暴力、学校・進路、
発達や受診、セクストーションなどのデジタル上の性的被害が、
別々ではなく重なって届きました。

必要な体制

食事、居場所、相談、安全確認、同行、制度接続を分けず、
夏休み中も戻ってこられる関係を地域に残す必要があります。

00

このレポートで伝えたいこと

見るべきは、件数だけではありません。 困りごとの重なりです。

夏休みには、給食、学校で出会う大人、生活リズムが同時に弱まります。
暑さと電気代、食費の増加、家庭で過ごす時間の長さが重なり、
外から見えにくい場所で子どもや親のしんどさが深くなっていました。

448件

延べ日次対応

160件

属性確認

182件

安全確認・継続確認

5領域

夏の主要テーマ

【このレポートについて】本レポートは、2026年6～8月の相談・サポート記録をもとに整理した現場レポートです。統計調査ではありません。

項目によって集計対象・母数は異なります。確認できない項目は推測せず、記録から確認できる範囲のみを掲載しています。

※「延べ日次対応」は、相談者ごとに1日の対応を1件として集計しています。同じ相談者への別日の対応も、それぞれ1件です。

※160件は、相談者区分と地域を整理した記録です。地域を確認できなかった9件は「不明」として集計しています。

休みに入ると、 支えが同時に途切れます。

給食がなくなる。学校で会えていた大人と会わなくなる。家で過ごす時間が増える。
暑さの中でも冷房を使いにくい。夏は、もともとあった困りごとを一度に大きくします。

ごはん

給食がなくなり、家に食べるものがない。給与日まで米がない。

学校

先生や友人との接点が減り、夏休み明けへの不安が強くなる。

家庭

在宅時間が増え、暴力、緊張、きょうだいの世話から離れにくくなる。

夏休みは、家庭だけで支えられるかが試される時間になっています。

相談は、食・安全・心・学校・医療の 間をまたいでいました。

相談の入口は一つでも、必要な支えは複数にまたがっています。

領域	主な内容	件数
暮らし・食	食料不足／生活費／冷房費	112件
家庭・安全	暴力／DV／家出／養育負担	143件
心の不調・自傷	希死念慮／OD／自傷	76件
学校・進路・関係	不登校／転校／受験／友人	80件
医療・発達・デジタル被害	受診／発達／性的画像被害	37件

※領域別件数は、448件すべてをその日の中心テーマ1件に分類したものです。複数の課題を含む場合もあります。

※重点対応182件は、そのうち緊急度区分が赤・橙だった対応であり、領域別件数とは別の集計軸です。

件数だけでは、夏の相談の重さは分かりません。

食料を届け、安全を確かめ、学校・医療・福祉・法律支援へつなぐ必要がある相談がありました。
緊急度は、最初の一言だけでは判断できません。

重点対応 182件（100%）

30.2%

69.8%

区分	件数	内容
赤	55件	緊急の安全確認
橙	127件	継続確認・連携
合計	182件	重点対応

重点対応に共通：食・安全・心身の不調の重なり／未成年だけでは動けない／制度未接続
※対応件数は支援量を示すもので、状態の改善を示す成果指標ではありません。

オンラインで届いた声を、現実の支援につなぎます。

家族に知られたくない、SMSを使えない、人と会うことが怖いなど、
連絡方法そのものに制約がある相談もありました。

経路	種別	件数
LINE公式	オンライン	220件
相談メール・Instagram	オンライン	89件
個別LINE	オンライン	30件
その他SNSのDM	オンライン	9件
電話相談	電話	16件
対面・同行支援	対面・同行	84件

連絡手段に制約があってもつながれる入口を。
必要に応じて、食料支援・面談・訪問・関係機関連携へ。

子ども本人と保護者から、 切迫した声が届きました。

子ども本人からは、希死念慮、自傷、学校・進路、発達、家庭の安全。

保護者からは、食料不足、生活費、親子間の暴力、受診や制度利用について相談がありました。

相談者区分	延べ件数	地域区分	延べ件数
小学生	20件	大阪市内	88件
中学生	59件	大阪府内	39件
高校生	48件	府外	24件
18～25歳・保護者等	33件	不明	9件

現場

相談担当者から見たこと

夏の相談には、 長期休暇による時間の切れ目がありました。

1

長期休暇で失われる接点

給食だけでなく、先生や友人に会うこと、家庭の外で過ごす時間、生活リズムも弱まります。

2

相談できても動けない

親に知られたくない、受診に保護者の協力が必要、人と会うことが怖い。

3

オンラインから現実へ

本人の意思と状況を確かめながら、日常生活で支えられる大人や、学校、医療、福祉との接点をつくります。

一度の相談で終わらず、 何度も確かめる相談があります。

親に言えない、制度につながれない、返事が途切れる。
そうした事情から、何十往復も必要になる相談があります。

区分	往復数の目安	対応の焦点
短い相談	3～5往復	情報提供・整理
標準	10～20往復	状況整理・接続検討
長期化	20～50往復	安全確認・連携
最長クラス	50～100往復超	離脱と再接続

※往復数は夏季相談の実績集計値ではなく、相談対応を整理するための目安です。

相談の収束は、 本人の努力だけでは決まりません。

現実の条件が整うかどうかで、相談の長さは大きく変わります。

長引きやすい相談

親や家族に相談できない

食料・住まい・安全が不安定

自傷・家出・暴力の不安が続く

連絡手段が限られる

次へ進みやすい相談

信頼できる大人がいる

今日の食事と安全な場所がある

学校・医療・福祉と連携できる

次の行動を本人が選べる

危険は、夏の暮らしの中で重なっていました。

個別事例ではなく、複数の相談対応で確認された課題の重なりを、個人が特定されない形で整理しています。

食料不足 × 暑さ × 連絡手段の制約

給食がなく、食費と冷房費が増える中、家族に知られず助けを求めようとしても、使える連絡手段や受取方法が限られる。

家庭内の暴力 × 在宅時間の増加 × 頼れる大人の不在

家庭で過ごす時間が長くなり、暴力や強い緊張が続いても、学校など家庭外の大人に会う機会が減る。

希死念慮・自傷 × 学校不安 × 親に言えない

死にたい気持ちや自傷を抱えながら、受験、転校、夏休み明けへの不安が重なり、親や学校へ伝えられない。

セクストーション × 親に言えない × 拡散への不安

性的画像を送った後に脅されたり、拡散を恐れたりしても、家族に知られる不安から一人で抱え、相談や通報へ進みにくい。

危険は、一つの問題としてではなく、暮らしの条件の重なりとして現れます。

制度があっても、 利用できるとは限りません。

制度を知らないだけでなく、家族に知られる不安、手続きの負担、対象条件、移動や通信の制約があります。

壁	内容
知らない	制度や相談先の情報が届いていない。
たどり着けない	移動・時間・通信などの制約。
信用できない	過去の対応で傷ついている。
手続きできない	書類・説明・保護者同意の壁。
不足している	食事・同行・調整まで埋まらない。
対象外になる	年齢・地域・世帯条件など。
つながりが続かない	暮らしの立て直しには時間がかかる。
助けを求めにくい	説明し、動く力が残っていない。

シーパオは、相談を現実の行動へつなぎます。

段階	内容	具体例
1	まず、つながる	SNS・相談メール・ごはん
2	話せる関係をつくる	困りごとを一緒に整理
3	安全を確かめる	食事・暴力・自傷・居場所
4	一緒に動く	食料を届ける・連絡・同行
5	必要な支援につなぐ	学校・医療・福祉・法律支援
6	つながった後も支える	再相談できる関係を保つ

シーパオは、医療・福祉・行政などの専門機関の代替ではありません。必要に応じて関係機関と連携し、必要な支援につなぎます。
「制度につながったか」だけでなく、つながった後、暮らしがどう変わったかまで見ていきます。
食・居場所・相談を分けず、夏の暮らしを支える。

長期休暇にも途切れない、 地域の支えが必要です。

1 | 長期休暇の生活保障をつくる。

給食が止まる期間の食事、冷房を使える生活費、安心して過ごせる場所を、善意だけに委ねない。

2 | 子ども本人が支援へ進める入口をつくる。

親に相談できない子どもも、医療・学校・福祉へつながれる仕組みを整える。

3 | 相談を受け止める人と時間に予算をつける。

関係づくり、安全確認、同行、接続後の伴走を、民間の無償労働に依存させない。

シーパオ自身も、相談件数だけでなく、食や暮らしの安定、安心できる人や場所、制度につながった後の変化などを継続して記録し、支援のあり方を検証していきます。

※相談から支援につながるまでの期間や、接続後の継続状況などについては、今後も記録・検証を続けます。

まとめ | この夏の相談・サポートから見えてきたこと

夏休みは、子どもを支える仕組みの 空白を大きくします。

食事、安全、相談を、家庭だけに戻してはいけません。

夏休みは、給食や学校との接点が弱まり、家庭の外の支えが一度に薄くなります。
だからこそ、食・安全・相談を切らさない地域の仕組みが必要です。

子どもを、親だけに育てさせない。

支える | 夏のSOSを、現実の支援につなぐために

子どもから届く声を、 現実の支援につなぎ続けたい。

ごはん、居場所、相談。長期休暇に支えが途切れる前から、途切れた後まで。

ひとりでも多くの子どもと家庭が、孤立の中に取り残されないように。

子どもから届くSOSに、 応答し続けるために。

相談を受け止める人を増やすこと。

食と居場所を続けること。

制度につながる前後を支えること。

ご寄付・継続寄付でお支えください。

ご寄付・継続寄付はこちら



寄付・継続支援ページ

mail: info@cpao0524.org

<https://cpao0524.org/donate/>